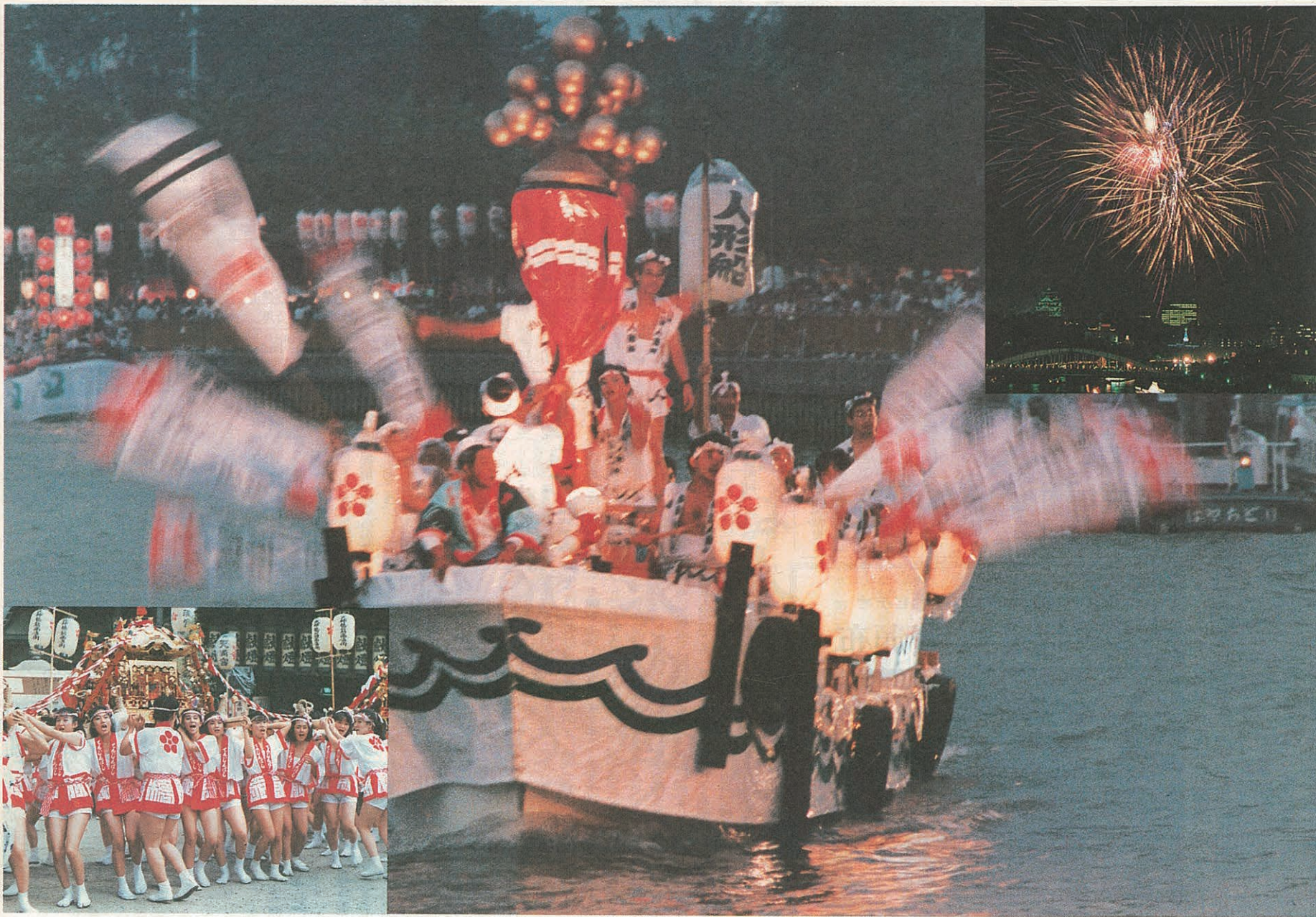




火と水の祭典

天神祭

中辻卯一

チキチン・チキチン……。いかにも大阪らしい早いテンポのだんじり（地車）囃子の音が聞えてくると、生まれた時から天満宮（大阪の天神さん）の氏子として育ったものとして、じっとしておられない気持ちになってくる。

京の祇園祭、江戸の神田祭とともに日本の三大祭といわれる浪速の天神祭が今年もやってくる。大阪の夏を彩り、意気と誇りを天下に示す、年に一度の巨大イベント。天神祭は七月二十四日朝の「鉾流し神事」からはじまる。水無月祇園の神事の後、斉（いらい）船を堂島川に漕ぎ出し、神童の手によって白木の神鉾を流し、「船渡御の無事・安全」を祈願する。しかし、神鉾を天満川（堂島川）に流し、その漂着した場所を斎場として、お祭りを行ったのが天神祭の始まりといわれる。

宵宮から境内に一步入ると拝殿にむかって左手にだんじり（地車）があり、終日カネや太鼓を鳴らしながら、それにあわせて手踊りの娘姿とともに、お祭り景気をかき立てている。

宵宮は、主として氏地のそれぞれの子供神輿、枕太鼓、獅子舞が氏地を巡行して宮入りする。子供神輿といえども相当の重さがあり、氏子の青年が担ぎ手となり、威勢よく町内をあばれ、練り歩いて天満宮に宮入りする。担ぎ手となった気分は非常に痛快である。

最近ではギャル神輿が大変評判で人気を呼び、アマチュア・カメラマンがシャッター・チャンスを狙って右往左往する。

×××

×××

×××

しかし、なんといっても天神祭のハイライトは、本宮の夕方からはじまる船渡御である。御鳳輦（ごほうれん）船を中心に神輿船など、飾りたてたおよそ一〇〇隻余の大船列が、催太鼓船、ドンドコ船のしぶきを先頭に、大簀船、簀船の巨大な焰、舞台船などが浮かぶ中、堂島川、大川とさかのぼり、桜宮の川端から数百発の花火が夜空に打ち上げられ、船渡御は最高潮に達する。

この行事は、古く天曆三年（九四九年）天満宮御鎮座の翌々年からはじまり、豊臣秀吉が大阪城を築いた頃には、ほぼ船渡御の形態が整ってきたといわれる。現在の催太鼓は慶長五年（一六〇〇年）豊臣家が大阪城陣太鼓を天満宮に与えたものとのことである。

その後、幾多の変遷を経て、昭和十二年には渡御船列は二〇〇艘に達したと記録されている。しかし、翌年から戦争のため中止され、昭和二十四年船渡御は復興したが、地盤沈下のため神輿船が堂島川に架かった橋の下を潜り抜けることが出来ず、コースの変更が必要となった。

そこで、今までと異なった遊航構想が打ちだされ、昭和二十八年から現在のような中之島公園と桜宮公園を結ぶ水域を使用する姿となった。

種々の困難を打開し、天神祭の伝統を守り、さらに盛り上げているのは、大阪人の力強い心意気と土性骨であろう。そしてその日、この夕べの感動の渦の中に、老いも若きも巻きこまれ、大阪じゅうがお祭り気分になって沸きかえる。大阪の夏を彩る火と水の祭典である。

（高学部教授）

かつて「当たり前」だと思ひ込んでいて、別段、不思議でも何でもなかったことが、世の中の移り変わりにつれて、さらにはこちらが馬鹿を重ねることによって「当たり前」でなくなった感じがする▼「当たり前」の尺度や物差しが徐々に、あるいは急激に変わるのには「当たり前」なのであるが、それにしても、「当たり前」が「当たり前」でなくなる事例の多さにいさか辟易するのは「当たり前」のことではなからうか▼昨今、乱塾時代といわれ、塾に通うのが「当たり前」になっていて、塾に行かない子供を「未塾児」というのである。塾に通うのが「当たり前」でなかった佳き時代に育った者にとっては、塾に通う、ないしは家庭教師について勉強するのは何とも理解しがたいことであって、勉強は一人でするものという考え方が支配的であり、「当たり前」であった▼そればかりではない、塾に入るのに試験（入塾テスト）があるという、まったく想像を絶し、仰天すべき事例が、「当たり前」でない私を、人は化石人間が博物館行きに近い存在との軽べつのまなざしで見るとこのような、きわめて「当たり前」でない時代感覚のものが、「当たり前」感覚の若者や学生と折り合っていくのは、なかなか容易ではない▼所詮、いつの世でも「当たり前」と「当たり前でない」ものがぶつかり合っている。いまの若い者は「式」の愚痴に落ち着くのであろうか▼暑くなると、頭の回転が「当たり前」でないのか、いさか「千里眼」の本意に反する文章になった。「当たり前」のことと海容いたれば幸いである。

（S・I）

昭和六十二年夏季休業期間
【七月二十一日(火)】～九月二十
日(日)中における学内の措置は
次のとおり。

		施設	施設利用時間		
			平日	土・日・曜	7/25〜7/31
第2部	第1部	学 部	9時〜16時	休	休 業
		体 育 館	9時〜16時	9時〜17時(届け出により許可)	9時〜17時(届け出により許可)
		図 書 館	9時〜20時	9時〜17時(届け出により許可)	9時〜17時(届け出により許可)
		第 一 診 断 室	9時30分〜15時	休 業	休 業
		総合図書館	9時〜17時	休 業	9時〜17時
		情報処理センター	9時〜16時	休 業	9時〜16時
		就職 課	9時〜17時	休 業	9時〜17時
		そ の 他	9時〜16時	休 業	休 業
		第 2 診 断 室	13時〜19時	13時〜19時(届け出により許可)	13時〜19時(届け出により許可)
		第 2 部	第 2 部	13時〜19時	休 業
第2部	第1部	教 育 館	13時〜19時	13時〜19時(届け出により許可)	13時〜19時(届け出により許可)
		各 事 務 室	13時〜19時	休 業	休 業
		体 育 館	14時〜20時	休 業	14時〜20時(届け出により許可)
		有 部 館	13時〜19時	休 業	13時〜19時(届け出により許可)
		第 二 診 断 室	13時〜19時	休 業	休 業
		分 館	(土曜のみ)	14時〜20時	休 業
		(開 業 間 夜 間)	14時〜20時	14時〜20時	休 業
		(一般 開 業 間)	9時〜20時	14時〜20時	休 業
		就 職 課	13時〜19時	閉 室	13時〜19時
		資料 研究 室	13時〜19時	閉 室	閉 室
第 2 部	第 2 部	16時〜19時	閉 室	閉 室	

第2部	第1部	○土・日曜日及7月25日〜7月31日は 休 業とさせていただきます。
		○8月10日〜8月22日は一斉休業と させていただきます。

第2部	第1部	○月曜日の金曜日(7月25日)は7月31日 及び8月10日(7月25日の休日を 除く)は内立ち入りを禁止する こと。
		○土・日曜日及び7月25日〜7月31日は 届け出により9時〜17時の間は学 内立ち入りを禁止する。○8月10 日〜8月22日は一斉休業とし、学 内立ち入りを禁止する。

なお、就職資料室は7月21日～9月20日（土・日曜日及び8月14日～8月15日は除く）の間、第1部は10時～16時50分、第2部は13時～19時開室する。

山での夜空の星はほかになく、こゝである。天気のいい日には、唐松山で登れば立止連峰、富士山を望み得る。また、下界は吐き違う清涼感に、読書・ルー・ルーが眠らないことに飽ちた場所にもえよう。

その二松本から糸魚川までの〇五・四にわたるJR赤松線の沿線では、松本から北へ約十キロ、柏木町鹿島、帯を、通称安曇野^{アツノ}と呼ばれる、唐土申^{カラシ}と名づけた町とつながっている。そこで、ごく手軽にアルバイをすれば、学生諸君の中に、あれこれと夏休みのプランを練り上げ、その費用をアルバイトで考えている人も多かった。しかも、ながら、夏休みの生アルバイトの需要がかなり比

アルバイをする七の諸注意を述べてお。まず大切なことは、仕事七の安全性と就労条件の確認をすることである。就労する場合は、危を伴うと考えられるもの、教育的に好ましくないもの等、職種は厳しく制限し取り扱わなければならない。また、アルバイ

すると、やがて制に苛まれることにもなかねない。つまり、金銭面で得るところがある。方、貴重な学生生活の七失、ものも大以上、ということある。

以上、アルバートの諸意見を述べたが、就労の弊は、必ず労働条件を確認し、万一、事故やトコブルに遭った時は、ためらわず学生部へ相談にいられた。

(学生部

法第3回会議室で、馬場「梅」と明末清の「元寇」概史の比較と討論がなされた。参加者は延百余人、小規模特殊な大会にでは、はれまの最盛の数といつては、

なお、大会運営には、文学部国文学科坂出伸教授、喜葉里二専任講師が当たった。

—建築学科の尾畑君—
「金の卵」賞を受賞
 毎日・DAS学生デザイン賞

アール・マイナー教授来学
アメリカ合衆国・プリンストン
大学のアール・マイナー教授が、

[illegible]

第10回 総合関関戦成績表

競 技 名	関西大学	関西学院 大 学
ス キ ー 観	○	●
バスケット	○	△
テニス	○	△
スケート	△	△
射撃	△	△
アメリカンフットボール	●	○
野球	●	●
水泳	○	○
ボレー	○	○
馬術	●	○
ヨロイ	○	○
陸上ホッケー	○	○
ハンドボール	△	△
バドミントン	△	△
軟式フェニックス	●	●
自転車	○	○
軟式野球	○	○
硬式野球	●	●
バレーボール	○	○
バスケットボール	○	○
拳銃	○	○
洋弓	○	○
アイスホッケー	○	○
ゴルフ	●	○
ラグビー	○	○
剣道	○	○
空手	○	○
サッカー	●	○
器械体操	○	○
水上競漕	○	○
水球	○	○
卓球	○	○
陸上競技	○	○

第10回総合開関大会が七月十八日（木）から三日間、関西学院大学上ヶ原キャンパスを中心に開催された。

大会は最終日を除き好天に恵まれ、順調に日程が消化した。競技成績においては七勝三敗と水泳が勝八敗四分と大勝利、通算の対戦内容も、本学体育会員の健闘が随

「健康マラソン大会」も、多くの
応援、参加を得て大会に花を添え
た。

なお、各種目の対戦成績は別表
のとおり。

(学生部)

本紙第一六四号、五月十一日
発行付て、既報の創立一〇周年
記念映画、關西大学、風雪の
歴史(一) 歴史編 二十九分、「櫻
花」 歴史(二) 現代編 三十分、
この二つのビデオを複製し、限
定、実費販売せらるゝとなつ
た。

これは、創立一〇周年を記
念し、製作された映画で、一人
でも多くの人の創立一〇周年
記念の資料として、主として
学生諸君が帰郷先の家庭へ手
輕に親類縁者へとを寄附的に作贈
されたいので、歴史編と現代編
の二つのダブルカセットが
又に取附けられ、

在學生、在學生の父母、校友

は昨年、関西大学創
校記念会が発行
した「**紹介の新**
ホンカード
校友会が発行
した**新入生**」を
持っている。な
らば、別に、別
に希望の場合は、四〇〇円が必要。

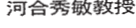
関西大学
KANSAI UNIVERSITY

● 関西大学

立（一〇）年を以て終る。その記念レポカードを発行、好評を博したが、引續いて「大学」DUNSTONの文を巨きを誇るというカードを作つたといふと、要領がたぬといふのは「新カード」50度数のため、なデザンになつてゐる。記念カードにも使へるし、知人への贈り物にも好まれる。値段は一枚八〇〇円。字内では関東大学生活協同組合のレイカードで販売してゐる。

11月18日(土) 関西西学生会
 11月19日(日) 関西西学生会
 11月20日(月) 関西西学生会
 11月21日(火) 関西西学生会
 11月22日(水) 関西西学生会
 11月23日(木) 関西西学生会
 11月24日(金) 関西西学生会
 11月25日(土) 関西西学生会
 11月26日(日) 関西西学生会
 11月27日(月) 関西西学生会
 11月28日(火) 関西西学生会
 11月29日(水) 関西西学生会
 11月30日(木) 関西西学生会
 12月1日(金) 関西西学生会
 12月2日(土) 関西西学生会
 12月3日(日) 関西西学生会
 12月4日(月) 関西西学生会
 12月5日(火) 関西西学生会
 12月6日(水) 関西西学生会
 12月7日(木) 関西西学生会
 12月8日(金) 関西西学生会
 12月9日(土) 関西西学生会
 12月10日(日) 関西西学生会
 12月11日(月) 関西西学生会
 12月12日(火) 関西西学生会
 12月13日(水) 関西西学生会
 12月14日(木) 関西西学生会
 12月15日(金) 関西西学生会
 12月16日(土) 関西西学生会
 12月17日(日) 関西西学生会
 12月18日(月) 関西西学生会
 12月19日(火) 関西西学生会
 12月20日(水) 関西西学生会
 12月21日(木) 関西西学生会
 12月22日(金) 関西西学生会
 12月23日(土) 関西西学生会
 12月24日(日) 関西西学生会
 12月25日(月) 関西西学生会
 12月26日(火) 関西西学生会
 12月27日(水) 関西西学生会
 12月28日(木) 関西西学生会
 12月29日(金) 関西西学生会
 12月30日(土) 関西西学生会
 12月31日(日) 関西西学生会

高柳龍芳教授



日本計研空会第四十六回大
會が、五月二十日、
朝は庄倒の、これによつて
の諸警管官攻撃すのに苦は
準句をやする。国を肇めて税負
に、またきひやかに装その
容姿を、他に売りつけると。
小言もいふ。會計はひん

[illegible][illegible]

ハネリスト

河合秀敏（愛知大学教授）
蠟山昌一（大阪大学教授）
水谷幸正（佛教大学学長）
「ディネーター」
高柳龍芳（関西大学教授）



水谷氏

困は、資本や寶藏さへに債に及ぶ。そこにひきこまれ、鑑定不足は今様にせよ、會計からした後割のほんの部にすぎない現金の計算を意味することにうろたへし、また鑑定不足で現金の計算が概下同守備團に属するとして、永い月を隔てて歴々とは、両者に對する二重ノズを賢々なものにしてしまつた。

えれといふ地位は極めて低いとはいへ、その今も、現物を「鐵鎧鎧子」に捉ふることに、天を賑はり、地に這ひ、あたかも忍者のうしろ身を取て、現代ニ蘇つてゐるに違ひない。

氣を許せば奇も越ぬめに泡消が、油断すれば放浪無根、羽根を生じて去つていく。かと思ふは、人間万事銭世の中ば

の帝王となつて自喜する。ときには阿弥加光の光線次第と、あなへの世に出づる大敵次と、ある時に強かにし、懺悔的な錢の持つ幻魔力に誘はれる。

錢が来り、錢となり、錢は過ぎゆく様を、昔もめ會計は正確に忠告記録し、報告してきてく。ときには、はかなげ

めいたスタートに流し目を送るし、う風は、會計にはかつて一度も、會計は、このように錢が何のものでもないについで問うことなど、今のところ、その本質を探ることもない。

我々の目前前、千變万化することなく来る。

この大口オロシしも摩訶東來

賀がある。鉦に對し、商都都市大
阪が文化商業都市を脱した今日
の文化文藝活動に對する今更
味いものがある。

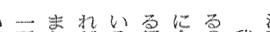
學者として天下無双家を論
じても借金私ごとが金、金持
て無學のためは感傷爆めにして
理めても言ふたのである、大隈
の豪勢が輩した人たる彼は誤
論四である。彼はよれば、西洋美

と、捉えようとしないといひ
やうと思われ。

鐵山　金銀極めの「簡單明瞭な聲調」
動盪に促さぬものである。一つ

所原、水が高い所から低い
所に流れてゐるやうに、金は
流れたいといふこと、もう一つ
則は、水の円に於ける同様に、
金は險の存在を必要ならぬ

公開シンポジウム「銭」

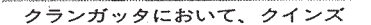


あつて縛られて
とは世間的な価値観から出てい
る。今、今日の原
則、それを越えたいことを意味
している。私は出家するに当り、
二つの誓いを立たせた。その一つ
は、身を持たないこと、他の一つは
欲求の自由解放がわかれる。

な。この後、パナリスト間
において、「自由はいつのやうに
であった。欲望への執着を断つ
俗人は法を求め、経済の発
達を求め、自由解放がわかれる。

[illegible]

在外研究員 体験記



クランガッタにおいて、クインズ

doi:10.1017/S0022292412001511

青木 積之介

ター城において、ジ
ザー夫妻と筆者夫妻

へく。その縁にはミユヒエ
大ビールメカのそれれ
ル槽を花飾り付けし荷
運、馬車と馬車の間には
各地の民族衣裳を付け女
てフツアノが加わり、
上にも開閉を盛り上げる。
ードが間に入る、大デ
中では客が長椅子にネジロ
座り、威勢のいいオさん
ットルネツキを腕に
て忙し歩き廻り、そして
アン帽に半ズボンの楽団
し歌う。客達は大声で喋り

訪ねて、日常の研究生活の都度意見交換なされた。これは三つのプロジェクトを考えさせられた。先ずは、心理学独立のの曾孫弟子々たる正統派は常に正統実験心の實驗活動も、絶えずの日常活動も、従ってその積み重ねという趣意を分かつたところにはネッカーアウ（今ド市の主筆であるヘルマン先生の講

慣れも手伝って、前
は随分と聴取理解が
集中して聴くこと
で、本場で必要とさ
れたドイツ語を自然に
と聞き取ることが出来
た。それさえ出来
れば、セミナールの
は受け止めて貰える
はずだ。冬学期オーバ
ーバーゼ
の日は私がレフエ
を発表と討論を済

四月十一日、後ろ髪を
下して、髪を再仕立て
て、文部部長教授

の寄港にもレンタカーから、安くて（一日五
十円以内）速くて安全
には、ベストかも。ただ
持つてないに困る。

入ト一〇は日本事ばかり理由は故故障が少ないの氣に入つた「フアル氣度五十番ぐらゐに低よその國へ行つて速いことかもしれませ

(經濟学部教授)

たが、東部旅行の際に二度の「パンク」を二度目のケースは、ハからボストンに向かう

んだ。ところで、危険なバ
止地点は見通しの悪い
そしてタイヤの交換だ
に十数年前に自動車学
を一度見たり、その
ヤツギがうまく動かな
い。おまけに、この日
でレンタ会社の支店
、車の取り替えにも苦
お、最寄りの空港にあ
中無休。

アメリカのAAAにつ

ドイツの場合はADA
ケースの範囲は非常に広
く便利であった。よく
と案内書（このモーテ
でも役立った）や各地
が沢山もらえるので加
おきたい。

（法学部教授）

助の「ソーセージやチキン」を。時には立ち上がり初対面うと外国人であらうが隣人組み合唱し、ツムヴォール（）となる。デントの中は蒸るような熱気が充満する。祭に内外から五〇〇万人がせ、四〇〇万リツトルのビ消費されるという。

（文学部助教教授）

期は、ヘルマン先生の講
座で、三つのプロジェクト
の日常の研究活動
の都度意見交換にあ
わねばならなかった。
先生は、心理学独立の
の字風は常に正統実験心
の日常活動も、絶えず
法論を踏まえ、従って
的工夫の積み重ねといふ趣
きで、来独して分かったこと
は、バイマ市の生ガリアアウ
（今、

慣れも手伝つて、前
 比れば随分と聴取理解が
 集つてきた。集中して聴くた
 時間もあるが、ずノート
 速いドイツ語を自然に
 理解できる。本場必要と
 なる力こそ、これさえ出来
 れば母国語同様、こちら
 がなければ、ゼミナールの
 終講日では、冬学期パー
 ーゼの終講日であつた。か
 ね、その日は朝がレフエ
 発表と当番、その日は朝が
 発表と討論を済

た。四月十二日、後ろ髪を
はき直して、新しい制服を
着た。父（文学部教授）

どの空港にもレンタカーはありますから、安くて（一日五千円以内）速くて安全なものにはベストかも。ただ函を持ってないとも困る。

のつづき。オーストラリア智向け情報誌として「チヨ」という雑誌があり、日本で「暮らしの手帳」みたいなもの。この雑誌が三月に、自

あったが、東部旅行の際に
 続に二度の「バク」を
 二度目のケスレは、ハ
 クからボストンに向かう

を踏んだように、危険なバ
ッ停止地点は見通しの悪い
塀、そしてタイオの交換だ
れまな十数年前に自動車事
業を度々営み、その
用ジャッキがうまく動か
なう始末。おまけに、この日
記念日でレンタカーの支店
閉店、車の取り替へにも苦
(なれ)。最寄りの空港にあ
はらず無休。
に、アメリカのAAAにつ

(西ドイツの場合はA D A
ービスの範囲は非常に広
く便利であつた。よく
無料の案内書(このモーテ
ルにも役立った)や各地
地図が沢山もつたので加
めておきた。

(法律部教授)

はAD A
非常に広
た。よく
このモーテ
た)や各地
るので加
部教授)



主題別参考図書

(人文・社会)

その主題の書架に配置されている。『日本人名大辞典』や『世界伝記大辞典』などの分野を限らない人名事典類はここに集めてある。その内『職員録』や『会社職員録』などのように毎年出版されるものは、最近の五カ年分だけを配架し、それ以前のもは書架に収蔵している。また、主題別人名辞典である『美術家名鑑』は『美術』に、『和歌俳諧人名辞書』は『文学』に分類されている。

各書架の側板の上部には、主題別ガイドが出ている。書架の通路に入るとそれぞれの書架

参考図書とは、特定の知識・情報について調べるための図書と定義されている。情報のラッシュといわれる今日、これらの参考図書を使って、調査研究の必要に迫られる機会が多くなっている。

レファレンス室の資料は、およそ目的に配置されているが、目的の資料に的確にアプローチするには、その配置をよく理解しておく必要がある。そこで今回は参考図書について説明する。

『日本統計年鑑』や『朝日年鑑』、各種の『白書』類は、スベイスの関係で、最近五カ年間のものを配架している。それ以前のものが必要なときは、カウンターに請求する必要がある。ただし、『日本美術年鑑』、『文芸年鑑』などの文獻目録として利用できるものは、古い年度の分でも所蔵しているすべてを配架している。

年鑑・統計類を採集する場合でも、「統計」の分野だけでなく、例えば物価や労働、あるいは金融などそれぞれの主題の書架にアプローチすれば、求める情報やデータが見つかる場合も多い。

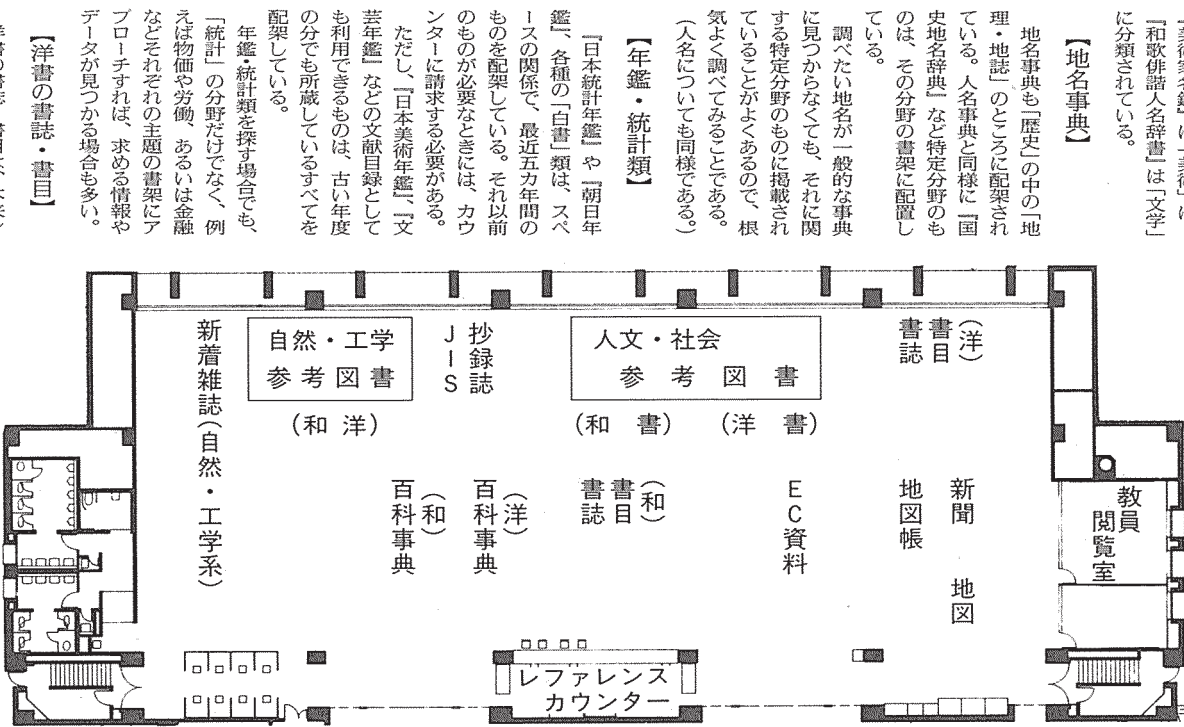
総合的な

書誌・書目

書誌・書目は、出版物の目録、雑誌目録、所蔵目録及び翻訳目録などの総称であり、主として出版物の確認や所在の調査に利用する資料である。

『国書総目録』、『雑誌記事索引』、『学術雑誌総合目録』、『国立国会図書館蔵書目録』、『出版年鑑』や『日本書籍総目録』などがこれにあたる。もっともここに配置されているのは、百科事典と同様、特定主題をもたない総合目録類であり、主題ごとの目録類は、それ

レファレンス室の参考図書案内



主題別参考図書

(自然・工学)

資料は、書庫内に別置している。また二階の開架閲覧室にも相当数の参考図書を備えている。その中にはレファレンス室にないものもあるため、一度確かめておくこと。自然系の新着雑誌が南側に配置されているため、自然科学・工学系の参考図書はこの雑誌コーナーのそばに集まっている。配架は原則として人文・社会系と同様、主題別にな

地名事典

地名事典も歴史の中の「地理・地誌」のところに配架されている。人名事典と同様に『国史地名辞典』など特定分野のものは、その分野の書架に配置している。

年鑑・統計類

『日本統計年鑑』や『朝日年鑑』、各種の『白書』類は、スベイスの関係で、最近五カ年間のものを配架している。それ以前のものが必要なときは、カウンターに請求する必要がある。ただし、『日本美術年鑑』、『文芸年鑑』などの文獻目録として利用できるものは、古い年度の分でも所蔵しているすべてを配架している。

年鑑・統計類を採集する場合でも、「統計」の分野だけでなく、例えば物価や労働、あるいは金融などそれぞれの主題の書架にアプローチすれば、求める情報やデータが見つかる場合も多い。

洋書の書誌・書目

洋書の書誌・書目は、本来レファレンス・カウンター前の書誌・書目コーナーに配架するべきであるが、スペースの関係で図のよう北側の教員閲覧室付近に配架している。ただし、『新取洋書総合目録』、『学術雑誌総合目録』、『欧文編』のよう国内の所蔵調査によく利用するものについては、カウンター前の書誌・書目コーナーに配置している。

新刊紹介

法学部教授 森省三

ほか編著

『憲法概説』

(晃洋書房・三〇〇〇円)

本書は、十二名の憲法研究者の力作を集めた『憲法の教科書』である。多数の研究者が分担執筆した場合、個々の執筆者の個性・力量を生かしたうえで教科書としての首尾一貫性、体系的な整理をどう実現していくかに編者としての苦慮があるであろう。本書は、分担執筆した本書出身の研究者が、それぞれの担当箇所を意欲的なアプローチを行い、貴重な問題提起を行っている。例えば、信教の自由(森省三)、国会(相川貴文)、労働基本権(亀田健二)、憲法改正の限界と変遷(小堀久男)、法定手続の保障(橋本純二)、平等権(吉川寿一)等々。また、分担執筆部分の中には、『論議』として評価されるものもある。したがって研究者にとっては示唆に富むこれらの箇所も、教科書として「集まった原稿をみると、かなりの統一がめだた。……今後、研究会を重ね、次第に体系を」とのうたいもつりである(本書はしがきより)と率直に述べられている。

法学部教授 森省三
ほか編著
『憲法概説』
(晃洋書房・三〇〇〇円)

法学部教授 河田修一
著
『中国近代思想と現代』
(研文出版・二四〇〇円)

文学部教授 河田修一
著
『中国近代思想と現代』
(研文出版・二四〇〇円)

文学部教授 河田修一
著
『中国近代思想と現代』
(研文出版・二四〇〇円)

文学部教授 河田修一
著
『中国近代思想と現代』
(研文出版・二四〇〇円)

文学部教授 河田修一
著
『中国近代思想と現代』
(研文出版・二四〇〇円)

文学部教授 河田修一
著
『中国近代思想と現代』
(研文出版・二四〇〇円)

孫文とともに辛亥革命の指導者であった章炳麟を中心に、孫文や康有為について、彼らの思想を論じ、彼らをめぐる現代中国での研究の動向について書かれたIIの諸文章は本書のハイライトである。そこには中国での研究動向のうちに現代中国の政治状況の現実の姿を捉える冷静な洞察力が光っている。

山野博史
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)

文学部助教授 木庭元晴
ほか著
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)

文学部助教授 木庭元晴
ほか著
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)

文学部助教授 木庭元晴
ほか著
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)

文学部助教授 木庭元晴
ほか著
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)

文学部助教授 木庭元晴
ほか著
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)

文学部助教授 木庭元晴
ほか著
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)

文学部助教授 木庭元晴
ほか著
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)

本書を導きの糸としながらも、なによりゆかりのある古今の書物のなかを、あるいは実際になわ研究の動向について書かれたIIの諸文章は本書のハイライトである。そこには中国での研究動向のうちに現代中国の政治状況の現実の姿を捉える冷静な洞察力が光っている。

山野博史
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)

文学部助教授 木庭元晴
ほか著
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)

文学部助教授 木庭元晴
ほか著
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)

文学部助教授 木庭元晴
ほか著
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)

文学部助教授 木庭元晴
ほか著
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)

文学部助教授 木庭元晴
ほか著
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)

文学部助教授 木庭元晴
ほか著
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)

文学部助教授 木庭元晴
ほか著
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)

本書を導きの糸としながらも、なによりゆかりのある古今の書物のなかを、あるいは実際になわ研究の動向について書かれたIIの諸文章は本書のハイライトである。そこには中国での研究動向のうちに現代中国の政治状況の現実の姿を捉える冷静な洞察力が光っている。

山野博史
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)

文学部助教授 木庭元晴
ほか著
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)

文学部助教授 木庭元晴
ほか著
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)

文学部助教授 木庭元晴
ほか著
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)

文学部助教授 木庭元晴
ほか著
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)

文学部助教授 木庭元晴
ほか著
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)

文学部助教授 木庭元晴
ほか著
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)

文学部助教授 木庭元晴
ほか著
『生きていく太平洋』
(神戸新聞出版センター・二〇〇〇円)



編集後記

本書は、学生諸君に有意義な夏季休暇を送って欲しいという願いを込めて企画・編集に臨んだ。大阪の誇る伝統文化のひとつ「天神祭」について、天満宮の氏子として幼少の頃から神輿を担いでいられた、純粋にわっちゃんの中辻教授に執筆いただいた。公開シンポジウム「銭」も京都大阪に最もふさわしいテーマとして、高柳教授にまことめをお願いした。特集「世界を歩く」は国際化時代に生きる学生諸君にホッとさせる世界を伝えたという気持ちから、在外研究を終えて帰国されたばかりの先生方に執筆の労を煩わした。同じく「将来のめざし」についても、人生の大きな目標を見出し、大学における日々の勉学に励んで欲しいとの願いから、先生方には短い期間に執筆のご無理をお願いした。

「多忙なおひら、執筆いただいた教職員の方々には、深くお礼申し上げます。本紙面が学生諸君にとって有意義な二カ月の一助ともなれば幸いです。」
(井上・藤井)